

SDS(安全データシート)

作成日:2017/8/28

1.製品及び会社情報

製品名 : 面白いほどカビが生えないGold
会社名 : 株式会社ピュアソン
住所 : 東京都豊島区池袋2-63-4
担当部門 : 品質管理部
担当者 : 石田智洋
電話番号 : 03-5960-3121
FAX番号 : 03-5960-3128
整理番号 : F99A002
推奨用途および
使用上の制限 : 皮膚接触用途に使用してはならない
防カビ・抗菌処理

2.危険有害性の要約

GHS分類:

物理化学的危険性:

可燃性/引火性エアゾール

健康に対する有害性:

急性毒性-経口 : 区分外

急性毒性-吸入(粉塵/ミスト) : 区分外

皮膚腐食性/刺激性 : 区分外

眼に対する重篤な損傷性/刺激 : 区分2B

発がん性 : 区分1A

生殖毒性 : 区分1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分3(気道刺激性・麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(肝臓) 区分2(中枢神経)

GHSラベル要素:

絵表示またはシンボル:



注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : 引火性の高い液体及び蒸気
: 眼刺激
: 発がんのおそれ
: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
: 呼吸器への刺激のおそれ
: 眠気又はめまいのおそれ
: 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓、中枢神経系の障害

注意書き:

安全対策 : 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
: 熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。-禁煙。
: 容器を密閉しておくこと
: 容器を設置しアースをとること。
: 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
: 火花を発生させない工具を使用すること。
: 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
: 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

: 火災に際しては指定された消火剤を使用する。
: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
: 皮膚に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

保管 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
: 眼の刺激が続く場合; 医師の診断/手当てを受けること。
: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
: 施錠して保管すること。

廃棄 : 廃棄物は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
: 廃棄物に関し不明な点がある時は所轄の自治体に問い合わせること。

3.組成および成分情報

単一/混合物 : 混合物

成分

No.	成分名	CAS No.	含有率(wt%)
1	エタノール	64-17-5	30-36
2	ジメチルエーテル	115-10-6	63-69
3	防カビ・抗菌剤	-	0.7-1.0

4.応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所へ移動し呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時には医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 : 付着物を布で素早く拭き取る。外観に変化が見られたり、刺激痛がある場合、気分が悪いときには医師の診断を受けること。汚染した衣類は脱ぎ去り、患部を多量の清浄な水でよく洗う。皮膚に付着した場合は多量の水で

目に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。直ちに医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には安静にして直ちに医師の診断を受けること。嘔吐物が気管に流入しないように注意する。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5.火災時の措置

消火剤 : 炭酸ガス・泡・粉末

特有の消火方法、消火を行う者の保護

- ・可燃性の物を周囲から素早く取り除く。
- ・指定された消火剤を使用すること。
- ・高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
- ・周辺を立ち入り禁止にして関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
- ・爆発の恐れがあるため、消火活動は十分な距離を取り風上から行う
- ・延焼の恐れが無いよう水スプレーで周辺を冷却する。
- ・状況によって防火服・耐熱服を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時の措置 : 周辺を立ち入り禁止にして関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。着火した場合に備えて適切な消化器を準備する。作業の際には、「8.ばく露防止及び保護措置」の項に記載する保護具を着用する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。屋外の場合、風上から作業し、風下の

環境に対する注意事項 : 河川への排出等により環境への影響を起ささないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法/機材 :危険でなければ漏れを止める。衝撃、静電気に備えて火花が発生しないような材質の用具を用いる。

二次災害の防止策 :すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。着火した場合に備えて、消火器剤を準備する。着火していないドラム缶、設備等に放水し延焼・加熱・破裂の防止に努める。

7.取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

:漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発散させない。容器の移し替えはしない。高温物、火花、火炎との接近および過熱を避ける。静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実にし、作業着・靴等は導電性のよいものを着用する。吸入、眼や皮膚への接触を防ぐため、適切な保護具を使用する。火の中に入れてはいけないこと。使い切って捨てること。

技術的対策

保管

技術的対策

:直射日光を避ける。火気、熱源から遠ざけて保管する。
:40℃以上になる所に置かない。
:水回りや湿気の多い場所に置かない。

適切な保管条件

:通風のよい乾燥した冷暗所に保管する。容器は密閉し、蒸気の発生を防ぐ。酸化性物質や過酸化物類と同一場所に保管してはならない。静電気対策のために、貯蔵設備等は接地を確実にし、行う。

8.ばく露防止及び保護措置

設備対策

:取扱い設備は防爆型を使用する。排気装置を付けて蒸気が滞留しないようにする。取扱い場所の近くには高温、発火源となるものが置かれていないような設備とすること。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。屋内作業の場合は、必ず密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。全体換気装置を併用することが望ましい。

許容濃度

化学物質名	STEL
エタノール	1000 ppm以下

保護具

呼吸器の保護具

:有機ガス用防毒マスク

手の保護具

:不浸透性であり、且つ丈夫な保護手袋

眼の保護具

:安全ゴーグル、保護面

皮膚及び身体

の保護具 :耐溶剤性の保護衣と帯電防止用安全靴

9.物理的及び化学的性質

外観

物理的状態

:液体

色

:微黄色透明

臭い

:グレープフルーツ臭

pH

:該当情報なし

融点/凝固点

:該当情報なし

沸点

:該当情報なし

引火点

:13℃

自然発火温度

:該当情報なし

燃焼性

:該当情報なし

燃焼または爆発範囲の上限/下限

27.0vol%/3.4vol%(噴射剤:ジメチルエーテル)

水に対する溶解度

:易溶

分解温度

:該当情報なし

10.安定性及び反応性

安定性 :通常の条件で安定
:避けるべき条件 高温へのばく露
:混融危険物質 酸、アルカリ、酸化性物質との接触を避けること

11.有害性情報

急性毒性 :LD50(経口) ラット >2000 mg/kg(防カビ・抗菌剤原液)
:吸入毒性試験(山下法) 毒性は認められない
刺激性 :皮膚一次刺激性試験(ウサギ) 無刺激(防カビ抗菌剤1%水溶液)

12.環境影響情報

漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるので取扱いに注意する。特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物 :少量の場合は火気の無い屋外で噴射音が消えるまでガスを抜いてから廃棄する。
大量の場合は許可を受けた廃棄物処理業者と委託契約をして廃棄処理を行う。

汚染容器および包装 :地方自治体及び関連法規の定めるルールに従い廃棄を行う。

14.輸送上の注意

容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。
取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

陸上輸送 : 消防法・高圧ガス保安法に従う。
海上輸送 : 船舶安全法に従うこと。
航空輸送 : 航空法に従うこと。
国連番号 : 1950
国連分類 : 2.1
緊急時応急措置指針番号 126

15.適用法令

消防法 : 危険物第4類アルコール類 危険等級Ⅱ
毒物及び劇物取締法 : 該当せず
労働安全衛生法 : 危険物・引火性の物質 名称などを表示・通知すべき有害物質
航空法 : 高圧ガス
船舶安全法 : 危険物(高圧ガス)

記載内容の取扱い

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。本文章の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性があり得る為、取扱いには細心の注意が必要です。また、注意事項は通常取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途用法に適した安全対策を実施の上ご使用下さい。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。記載された物性値、含有率などは、製品の一般的な値を示した物で、規格値、保証値ではありません。